

CSI 委託事業 海外出張報告書

平成 21 年 4 月 16 日

所 属:北海道大学附属図書館学術システム課
 職 名:システム管理担当 (係員)
 氏 名:野中雄司

下記の通り報告いたします。

期 間	平成 20 年 11 月 17 日 ~ 平成 20 年 11 月 21 日
出張目的	(1) SPARC Digital Repository Meeting 2008 参加 (2) CARL(Canadian Association of Research Libraries) , Ottawa University との意見交換 (3) IDRC(International Development Research Centre) との意見交換 (4) CISTI(Canada Institute for Scientific and Technical Information) との意見交換
用務先	(1) Renaissance Harborplace Hotel : ボルチモア【オタワ】 (2) CARL(Canadian Association of Research Libraries) , Ottawa University : オタワ【カナダ】 (3) IDRC(International Development Research Centre) : オタワ【カナダ】 (4) CISTI(Canada Institute for Scientific and Technical Information) : オタワ【カナダ】
用務	(1) 世界的な機関リポジトリの動向を把握することを目的に参加 (2) AIRway プロジェクトの説明, 日本及びカナダの機関リポジトリ, オープンアクセスの状況に関する意見交換 (3) ~ (4) 日本及びカナダの機関リポジトリ, オープンアクセスの状況に関する意見交換
出張内容	(1) SPARC Digital Repository Meeting 2008 参加 主 催 : Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition(SPARC), SPARC Europe, SPARC Japan 会議概要: 世界中の機関リポジトリに関する広範な話題を扱ったミーティング 参加人数: 約 330 人 11 月 17 日 (月) 以下の 4 つのセッションが行われた。 ① Opening Keynote Science Commons の John Wilbanks 氏の基調講演。 ② New Horizons • Sayeed Choudhury(The Johns Hopkins University) 「A Data-centric View of the Academic Universe」 • Shawn Martin(University of Pennsylvania) 「Institutional Repository Personality Disorder: How do we cure it?」 • Jennifer Campbell-Meier(University of Hawaii) 「Storytelling and Institutional Repositories」 上記講演者から機関リポジトリの構築には何が必要か, また何が重要かについてそれぞれの経験から発表があった。 ③ Value-added User Services • Joan Giesecke(Dean of Libraries) and Paul Royster(University of Nebraska-Lincoln) 「Value-Adding Services Bundled through an Institutional Repository: A Successful Model」

出張内容

- Hideki Uchijima(Kanazawa University Library) 「A Usage-centered Approach to the Promotion of Institutional Repositories」
- Norbert Lossau(Gottingen State and University Library/DRIVER) 「DRIVER: Open Access to Information through Digital Repository Networks in Europe and Worldwide」

機関リポジトリの付加価値サービスについて3人の講演者から発表があった。また、このセッションでは金沢大学附属図書館の内島秀樹課長がDRFの活動、DRFのサブプロジェクトについて日本の多くの事例を紹介した。

④ Innovation Fair

レセプションと同時に様々なテーマで20組の発表者から各2分間のショートプレゼンテーションがあった。なお、このセッションでは日本から唯一筑波大学附属図書館の金藤伴成氏から学協会著作権ポリシーデータベースについての発表があり、20組中一番と思われる喝采を浴びていた。

11月18日(火)

以下の5つのセッションが行われた。

① Policy Environment

- David Prosser(SPARC Europe) 「Public Policy Drivers for Change in Europe」
- Syun Tutiya(Chiba University) 「The Japanese Policy Environment」
- Bonnie Klein(Defense Technology Information Center, USA, U.S) 「Federal Government Repositories & Public Access to Grant Research」

各国の政策について3人の講演者から発表があった。また、このセッションでは千葉大学の土屋俊教授が4年前の同じ日に講演した自身のスライドを引用しながら、機関リポジトリの急激な増加など4年間に日本で起こった変化に加え、CSIの助成により日本の図書館コミュニティに新しい形ができつつあると紹介した。

② Campus Publishing Strategies

- Rea Devakos(University of Toronto) 「Building in Uncertain Times: News from the Great White North」
- Catherine Mitchell(eScholarship Publishing Group, California Digital Library) 「University of California, Let's Stop Talking About Repositories: A Study in Perceived Use-Value, Communication and Publishing Services」
- Janet Sietmann(DigitalCommons), and Teresa Fishel(Macalester College) 「Showcasing Student, Faculty, and Campus Publications: Promoting, Populating, and Publishing in a small liberal arts college IR」

大学における「出版」という意味合いでリポジトリをどうとらえるかについて3人の講演者から発表があった。

③ Luncheon Keynote

Witeck-Combs Communications 社 CEO の Bob Witeck 氏による基調講演

④ Marketing Practicum

テーブルごとに分野が決められ、各分野の架空の人物プロフィールを基にどのようにリポジトリをプロモーションするかという課題が与えられ、最後にテーブルごとに発表があった。

⑤ Closing Keynote

National Association of State Universities and Land-Grant Colleges (NASULGC)の David Shulenburger 氏による基調講演

	<p>なお、SPARC Digital Repository Meeting 2008 については以下に詳しい報告がある。</p> <p>A) 公式ミーティング記録 (http://www.arl.org/sparc/meetings/ir08/outcomes/index.shtml)</p> <p>B) 金藤 伴成. “集会報告 : SPARC Digital Repositories Meeting 2008”. 情報管理. Vol. 51, No. 11, (2009), 833 - 836. (http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.51.833)</p> <p>C) [drf:785] SPARC Digital Repository Meeting 2008 報告 (初日) (http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drfrm/msg00779.html)</p> <p>D) [drf:789] SPARC Digital Repositories Meeting 2008 (2 日目)報告 (http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drfrm/msg00783.html)</p> <p>(2) CARL(Canadian Association of Research Libraries) , Ottawa University との意見交換 * 以下カナダの各機関へは筑波大学附属図書館の金藤伴成氏と共に訪問した。</p> <p>11月20日(木) 午前</p> <ul style="list-style-type: none"> Brent C. Roe (CARL Executive Director), Diego Argaez (CARL Research Officer), Sam Popowich (Ottawa University Library) の3氏と会談。CARL による4つのIRプロジェクトについて説明を受けた後、日本のIR状況(NIIのCSI事業, IRDB, JAIRO 及び DRF の活動の紹介), 北大, 筑波大のIR紹介, AIRway (含 junii2) , SCPJ についてプレゼンを行い, 日本とカナダのIR状況, また CARL のプロジェクトや AIRway, SCPJ について意見交換を行った。 <p>(3) IDRC(International Development Research Centre) との意見交換 11月20日(木) 午後</p> <ul style="list-style-type: none"> Barbara Porrett (Manager, Systems and Collections), Sachiko Okuda(Research Information Specialist)両氏と会談。IDRC におけるIRの取り組み, ポリシー等について説明を受けた後, 北大, 筑波大のIR紹介をし, 意見交換を行った。 <p>(4) CISTI(Canada Institute for Scientific and Technical Information) との意見交換 11月21日(金) 午前</p> <ul style="list-style-type: none"> Alison Ball(Manager, NRC e-library), Naomi Krym(Business Development Officer)の両氏と会談。CISTI が公開を予定しているIRについて, 構築の経緯, ポリシー等について説明を受けた後, 日本のIR状況(NIIのCSI事業, IRDB, JAIRO 及び DRF の活動の紹介), 北大, 筑波大のIR紹介, AIRway, SCPJ についてプレゼンを行い, 意見交換を行った。
出張成果	<p>(1) SPARC Digital Repository Meeting 2008 特に米国については DRF, CARL, JISC, DRIVER のような共同体がないこともあり IR 情勢がわかりにくかったが, 本ミーティングへの参加により世界的な IR 情勢と共に米国の情勢を把握することができ, 多くの知見を得ることができた。またその内容を(日本から参加の他メンバーによる) DRF メーリングリストに寄稿することにより, 日本の IR 関係者に伝えることができた。</p> <p>(2) CARL(Canadian Association of Research Libraries) , Ottawa University</p>

	<p>との意見交換</p> <p>AIRway, junii2 を紹介することにより, AIRway プロジェクトの中心目標である異版 (EJ 文献/OA 文献) への統合ナビゲーションについての理解を得られた。また互いの国の IR 状況について意見交換を行い, それぞれ国内においてその状況を以下のように報告することで両国の IR 関係者へ互いの国の IR 情勢を知らしめることができた。</p> <p>A) E-Lert # 303 (CARL のニュースレター) (http://www.carl-abrc.ca/publications/elert/2008/elert303-e.html)</p> <p>B) [drf:788] オタワ (カナダ) の CARL 等 4 機関を訪問してきました。 (http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drfml/msg00782.html)</p> <p>(3) (4)IDRC(International Development Research Centre) との意見交換, CISTI(Canada Institute for Scientific and Technical Information) との意見交換</p> <p>同じ IR 運営担当者として率直な意見交換を行うことができ, IR 運用ポリシーのあり方等多くの知見をえることができた。</p> <p>◆ 成果発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ The SPARC Digital Repositories Meeting 2008 への参加とカナダ訪問 榆蔭 : 北海道大学附属図書館報、第 131 号、2009 年 3 月、pp.14-16 http://www.lib.hokudai.ac.jp/uploads/yuin131.pdf
--	--

- 【注】
- ◇ 会議, 学会等に出席の場合は, 講演, 座長などの役割, 会議概要などを明記する。
 - ◇ 聴講のみの場合には, 会議における研究動向, 企業や大学の動向, 注目すべき発表, 日本からの参加者など, 会議内容に関する, より詳細な内容を記入する (スペースが足りない場合は, 適宜, ページを追加)。